令和４年度　神石高原町立油木小学校　学校評価自己評価表

学校教育目標	未来（あす）を拓く ～学び続け成長する人に～	達成度＝達成値÷目標値×１００ 評価　Ａ：目標以上　Ｂ：達成度が目標の８０％以上１００％未満 Ｃ：達成度が目標の６０％以上８０％未満　Ｄ：達成度が目標の６０％未満

ミッション	中期経営目標	短期目標	具体的行動目標と手だて	評価指標（評価項目・目標数値）	9月 達成値	9月 達成度	中間評価	2月 達成値	2月 達成度	最終評価	評価結果と課題の説明（中間）	評価結果と課題の説明（最終）
明日も行きたい、行かせたい学校	児童主体の対話的で深い学びを実現する	児童が主体的に学ぶ授業スタイルを確立する	（授業改善・学び方の育成） ・問いの質的改善と思考場面の設定、発表方法の工夫等により、児童が主体性を発揮できる学習場面を創造する （複式学級の授業スタイル確立）	・本校の指導案に沿って、「単元を貫く問い」や「個別の問い」を構成した単元計画を作成する。 ・標準学力調査（国、算）において、全国平均比で１０P以上、または平均値比で昨年度より数値が向上した児童割合80%以上にする ・全国学力学習状況調査の全国平均以上の児童数割合を70%以上にする （国、算、理　15人/21以上）	83.3% 13人 86.7%	85.9	B	100% 国語 20人 算数 21人 52.6% 65.8% 13人 86.7%	84.2	B	・校内授業研修計画に沿って授業研究を推進しており、その際に単元計画を立案している。校内研修以外の授業においても「問い」を中心にした授業構成をするようにしている。未作成の1名は二学期に作成する計画である。達成値83.3%である。 ・結果分析を行い、各学年段階における課題を整理して二学期以降の取組に活用している。6年生の結果は国語5名、算数4名、理科4名が全国平均以上であり13名の達成とし、達成値61.9%，目標に対する達成度88.4である。	・校内授業研修に基づき全員達成した。日常の授業改善を進めるため授業交流や授業観察を随時行っている。「問い」の精選については、課題が残る。引き続き、子どもの学びが促進される「問い」を追究していきたい。 ・標準学力調査（受験39名中）において、国語20名、算数21名の達成であった。今後、個別の結果分析を行い、改善計画を立案する。 ・個別の課題に応じて休憩時間等も含めて取組を進めているが、絶対的な時間不足があり、本質的な解決には至っていない。「自ら学ぶ」方法と習慣が身につくよう、声のかけ方等にも留意していきたい。
	ふるさとに対する愛着、誇り、貢献意欲を高める	地域を題材とした学習や体験活動を推進する ・生活科 ・総合的な学習の時間 ・行事等（本物体験）	（地域と共にある学校） ・地域の文化、伝統、産業、魅力について、興味関心に基づいた課題設定を行い、探究的な学びを進める ・地域資源を活用した多様な体験活動を設定し、人、文化、自然に触れる	・5、6年生の児童アンケート肯定的回答12人以上にする「地域のために自分のできることをしたい」「地域の課題やよさに気づくことができた」 ・3、4年生の児童アンケート肯定的回答13人以上にする「地域のことが好き」「地域のことを大切にしたい」 ・1、2年生の児童 地域のすてきを5つ以上言える児童が13名以上にする	10人 83% 8人 66% 16人 123% 16人 123% 2人 15%	82.0	B	14人 117% 12人 100% 15人 115% 15人 115% 13人 100%	109.4	A	・一学期末に実施した児童アンケート結果により数値を出している。低学年児童は質問の意味等が十分につかめていないケースもあったようで、面接方式であれば，地域のステキを言葉にすることができた。 ・二学期以降の学習や行事において、本物体験活動等、地域を題材とした取組を行う予定である。 ・アンケート結果と目標値から各達成度を計算し、その平均をこの項における達成度としている。	・ティアガルテンで行ったほんもの体験活動等、行事で育てることをテーマに、生活科や総合的な学習の時間で地域を題材にした取組を進めている。 ・今後に向けて、さらに地域とのつながりを生かした学習を進められるよう準備をしたい。 ・また、地域の方をゲストティーチャーとしてお迎えする活動や新たなネットワークの構築等によって地域と共にある学校づくりを進め、ふるさとに対する愛着、誇り、貢献意欲を高めていきたい。
	生徒一人ひとりに居場所があり、自分らしく生活ができる学校をつくる	学習環境整備と良好な人間関係づくりを通して、落ち着いて安心できる場づくりを進める	（居場所がある安心安全な環境） ・物理的に明るく、整然と構造化された学習空間をつくる ・各種プログラム（いいところ見つけ）や異年齢縦割り集団の活用、リーダー会を実施する ・ふわふわ言葉の推奨と多様な評価活動、表彰制度を実施する	・児童アンケート肯定的回答85%以上 「自分にはよいところがある」 「気持ちよく学校生活を送ることができている」 「友達のよいところに気づいた」 ・児童全員が年間1回以上の表彰を受ける	86.6% 93.4% 93.4% (91.1) 107.2 41人 87.2%	97.2	B	71.1% 95.6% 93.4% (86.7) 102.0 47人 100%	101	A	・一学期末の児童アンケート結果により数値を出している。肯定的評価の割合は目標値を上回り、よい状況にあると捉えている。児童の表情が明るい、前向きな姿勢をよく見る等、保護者、地域の方からの声や教職員による観察状況とも一致している。 ・表彰については、一学期の間に延べ75人の表彰を行っているが、6名の児童はまだ表彰を受けていない。多様な表彰機会をつくることで一人ひとりのよさに気づく学校づくりを継続していく。 ・児童アンケート3項目の平均による達成度と表彰の達成度の平均をこの項目の達成度としている。	・二学期末の児童アンケート結果により数値を出している。肯定的評価の割合は一学期に続いて目標値を上回ることができた。保護者アンケートでは、「わが子は楽しく学校へ通っている」の項目において、よく当てはまるの割合が、60%から74%に向上した。 ・児童アンケート「自分にはよいところがある」の項目が下がっている。高学年になるほどに低下する傾向がある。自分で決めて行動することなどを中心に、自己肯定感を高める取組を進めていく。 ・2月末までに、延べ176人の表彰を行行い、全児童が1回以上の表彰を受けた。引き続き、一人ひとりのよさに気づき、尊重し合える関係性を育てていきたい。
	教職員のwell-beingを実現する	業務改善の促進と働き方改革の周知により、ワーク・ライフ・バランスを実行する風土をつくる	（働き方改革、well-being） ・教職員の働き方改革について、学校運営協議会を通じて地域、保護者への理解と周知を進める ・一斉定時退校日を設定する（毎週水曜日は17時15分退校） ・個別面談、グループ面談、学校衛生委員会を計画的に行い、労務管理を進める ・雑談の効用を生かし、幸せのお裾分けコーナー、ほっと一息タイムを設定する	教職員アンケート肯定的回答80%以上にする ・仕事にやりがいを感じる ・働きやすい職場である ・自分は心身ともに健康である ・ワークライフバランスの価値観を確立したという実感がある ・困った時、悩んだ時に相談ができる人がいる	100% 100% 90% 70% 90% (90)	112.5	A	100% 92.9% 92.9% 71.4% 100% (91.4)	114.3	A	・教職員アンケート(11名　4段階評価)の結果により数値を出している。目標を大きく上回る結果であるが、肯定的評価を4段階の4に絞って分析すると、達成度は68になる。より働き方改革をすすめ、それぞれのwell-beingにつながるよう推進する。 ・超過勤務時間は、9月末までの教職員平均は47時間29分である。個別に見ると45時間以上の者が4名である。9月から、平日の退校時刻を18時に設定して、時間意識をさらに高めるとともに業務の優先順位の付け方が適切にできるよう助言をしている。	・目標を大きく上回る結果であるが、肯定的評価を4段階の4に絞って分析すると、達成度は55に下がった。特に「心身ともに健康である」の項目で4の割合が半減しており、メンタルヘルス等の改善が必要である。 ・退校時刻に対する意識付け、業務量との兼ね合い、優先順位、自分のやりたいことの実現等のバランスを考慮している。組織体制を整え、業務の組織化、システム化を図ってきた。現在、超過勤務時間の教職員平均は、46時間3分であり、管理職を除けば、月平均45時間以上の者は1名である。自己研鑽、健康の維持増進を進め、教育の質向上を達成したい。